

第2学年 国語科の実践

1. 単元名 「お手紙」(全13時間 本時9時間目)

2. 単元目標

- ◎語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することができる。
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題にそって音読げきに取り組むことができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友達とひびき合いながら学習する子どもの育成」
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
低学年のブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴く」については、話し合いの場面で話している人に体を向けて聴くということはできている児童も増えてきているため、その児童を取り上げて、クラス全体に広げていきたい。話し合いの場面では、友達の意見に対して、「なるほど」「それもいいね」などの反応をしている児童もおり、友達の意見を聴こうとしている姿が見られる。一方で、自分の意見を伝えたい気持ちが強く、友達の発表を最後まで聴くことができていない児童もいるため、今はだれが話しているのか、今は話して良いのかを考えるように指導している。

「話す」については、発表するとき下を向いてしまう子どもや、声が小さくてみんなに声が届かない子どももいる。そのため、みんなの方を向いて、みんなに伝わる声で発表できるように指導しているところである。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

国語科では、「スイミー」や「ミリーのすてきなぼうし」などで、不思議に思ったことについてクラスで話し合っ解決するという経験をしている。これらを通して、一つの事に対して様々な考え方があることを実感している児童も多い。話し合いの場では、名前カードを使用することで、自分の意見やみんなの意見がどの位置にあるのかを確認しながら話し合いを進めている。

生活科の学校案内では、「1年生を楽しませたい」という思いから、自分たちの担当の場所を決め、イラストを使っての説明や、クイズを出すなどの工夫を考えることができた。準備の際には、「文字を大きくしたほうが1年生は見やすいよ。」など、見る相手を意識して準備をすることができた。

4. 単元と指導

<単元について>

本単元は、「ふきのとう」「スイミー」に続き、場面の様子などの叙述をもとに、登場人物について、何をしたのか、どのような表情や口調、様子だったのかななどを具体的にイメージして、行動の理由を想像することをめあてとしている。

本教材「お手紙」は、がまくんとかえるくんの会話を中心として構成されている。会話や行動の中に人物の心情が表れており、人物の様子や、感情の移り変わりを読み取ることができる。その際、登場人物の心情にかかわる語句に立ち止まらせ、考えたり動作化したりすることで、五感を高め、自分の言葉として身に着けていけるようにしたい。また、教科書に描かれている挿絵も、人物の心情を豊かに想像するための手掛かりになっている。登場人物の気持ちを考え、工夫して音読したり、演じたりすることを通して、楽しみながら想像し、読み深めていきたい。

<指導について>

これまでに、「ふきのとう」で音読発表会を行っている。また、1年生の時に、当時の2年生からお手紙の音読劇を見せてもらうという経験をしている。そのため、子どもたちは「自分たちも1年生に音読劇を見せてあげたい」という思いをもち、「一年生に楽しんでもらうためにはどうしたらいいのかな？」と考えるようになるだろう。そこで、「ふきのとう」で行った音読発表会の経験をもとに、音読劇を行うために必要なことを考えさせ、役決めをすることや登場人物の気持ちを考えることが必要なことを子どもたちから引き出し、全員が目的をもって主体的に活動できるようにしたい。

読む練習をする前に「かえるくんやがまくんがどんな気持ちなのか」ということを考える時間を設定することで、登場人物の心情を想像しながら、口調や簡単な動きを工夫することを意識させたい。子どもたちには、一人ずつ教科書のコピーを配布し、登場人物の気持ちやその理由となるところ、読み方の工夫などを書き込んでいくようにする。登場人物の心情の移り変わりに気づく手掛かりにして、より深く読み取っていけるようにしたい。

登場人物の心情をおさえ、どのように表現していくかについて考えていく中で、本文の中にある「きみが。」という言葉の読み方では、「不思議そうに」と「喜んでいるように」、「びっくりしているように」、「怒っているように」の4つがでてくるであろう。よって、本時では、「きみが。」はどのように読んだらよいのかな？を問題とする。これまでのがまくんの心情の変化を順におさえ、がまくんの心情をもとに考えられるようにする。自分の捉え方と友達の捉え方を比較して共通点や相違点に気づき、自分なりの考えを持つ姿をひびき合いの姿とする。

ノート指導については、まず、自分の考えをしっかりと書くことを大切にしていく。そのために、ノートに自分の考えをまとめる時間を十分に取り、自分の考えを記録していくことで、自分がどのように考えたのかについて振り返り、考えの変化などにも気づくことができるようにしていきたい。

5. 単元構想 第2学年国語科 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう「お手紙」全13時間 本時9時間目

- 単元目標
- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。
 - ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 - 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読げきに取り組むことができる。

「お手紙」はどんなお話だろう ①②

<11ページを見て>

・お手紙を送りあう話かな ・お手紙が来て冒険に出る話とかかな。

<本文を読んで>

- ・一通もお手紙をもらっていないがまくんがかわいそう。
- ・最後に手紙が届いてよかった。 ・いい話。 ・かえるくんが優しい。
- ・かたつむりじゃなくて自分で届けたほうがはやいんじゃないかな。
- ・手紙が来なくてもかえるくんがいるからいいじゃん。
- ・悲しいのはがまくんなのに、どうしてかえるくんまで悲しい気持ちになったのかな。
- ・とても急いでいるのに、かたつむりくんの手紙を届けてもらうところがおもしろい。
- ・どうしてかえるくんは幸せな気持ちだったのかな。
- ・かたつむりくんは「すぐやるぜ。」といったのに全然すぐじゃなかった。
- ・かえるくんはどうして手紙のことをがまくんに言ってしまったのかな。
- ・四日間も何をしながら待っていたんだらう。 ・みんなの不思議を解決したい。
- ・ふきのとうのときみたいに劇をやってみたい。 ・誰かに見せたい。

今までにお手紙をもらったことはありますか？

- ・年賀状をもらった。 ・お友達からもらった。
- ・ないよ。 ・もらえたら嬉しい。

音読げきをしよう ③

- ・役を決めないといけないね。
- ・長いから分けようよ。 ・どうやって分けようか。
- ・かえるくんたちの気持ちを考えないとけないね。

気持ちが表れるような読み方にはどのようなものがあるかを確認する。

登場人物を確認し、誰のセリフかおさえる。挿絵を見ながら話の順番を確認し、場面を分ける。

物語に興味を持ち、初読の感想を書くことができる。(態)

かえるくんとがまくんの気持ちを考えよう ④⑤⑥⑦⑧

| 一場面 | 二場面 | 三場面 | 四場面 | 五場面 |
|---|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんは悲しそうだね。 ・落ち込んでいるね。 ・かえるくんはがまくんを心配しているね。 ・かえるくんはがまくんが手紙をもらったことがないことに驚いているね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんは早く手紙を書きたくて急いでいるよ。 ・がまくんを喜ばせたいのかな。 ・がまくんが喜んでくれるかドキドキしてるんじゃないかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんは、手紙がもらえなくて落ち込んでいるよ。 ・かえるくんに怒っているのかな。 ・かえるくんは手紙が来なくて焦っているのかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんはかえるくんがどうして窓の外ばかり見ているのか不思議なんだよ。 ・かえるくんは焦っている。 ・「きみが。」<u>ほんどんな気持ちで言っているのかな。</u> ・<u>なんでお手紙のことをばらしちゃったのかな。</u> | <ul style="list-style-type: none"> ・二人は仲よさそうに肩を組んでいるね。 ・とても幸せな気持ちだと思うな。 ・どうして手紙が来るのが分かっているのに幸せなのかな。 ・二人は四日間も何をしていたのかな。 |

がまくんとかえるくんの言い方に着目し、がまくんとかえるくんの気持ちが変化していることを捉えるようにする。

登場人物の気持ちに着目し、読み方や動きを考えるようにする。

がまくんとかえるくんの行動やその理由、様子などを想像して、気持ちを考えている。(思)

語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することができる。(知)

「きみが。」はどう読んだらいいのかな？⑨(本時)

- 驚いた感じで読む。
- ・絶対に来ないと思っていたから驚く感じだよ。あきあきしたって言うてるじゃん。
- ・急に言われたから驚いたんじゃないかな。
- ・怒ってるのより驚きのほうが強いよ。

- 怒っている・疑っている感じで読む。
- ・「ばからしいこと、言うなよ。」「でも、来やしないよ」では怒ってる感じだったから、まだ怒っているんじゃないかな。
- ・かえるくんが嘘をついたと思ったんじゃないかな。
- ・お手紙をもらうことをあきらめていたから、ありえないと思ったのかな。

- 喜んでる感じで読む。
- ・やっとお手紙がもらえるんだからうれしいはずだよ。
- ・お手紙の内容がうれしかったんだよ。
- ・怒りの気持ちはなくなったよ。
- ・かえるくんがくれたということに喜びを感じてるんだよ。

登場人物の言動をもとに考えられるように、全員で本文を確認しながら進める。

かえるくんはどうしてお手紙のことを言ってしまったのかな？ ⑩

- ・がまくんに諦めてほしくないんだよ。
- ・我慢できなくなったんじゃないかな。
- ・つい言ってしまったのかな。
- ・早く教えてあげたかったんじゃないかな。
- ・黙ってたらサプライズが成功したかもしれないのに。
- ・がまくんを元気づけるためだよ。

かえるくんはどうしてかたつむりくんにたのんだのかな？ ⑪

- ・一緒にお手紙を待ちたかったんじゃないかな。
- ・サプライズしたかったんだよ。
- ・ほかのだれかに届けてほしかったんだよ。
- ・早く届けてあげるほうががまくんは喜ぶんじゃないかな。
- ・かたつむりくんじゃなくて、ほかの知り合いに頼んだらよかったのに。

どうして手紙が来ることが分かっていたのに、がまくんはともよるこんだのかな？ ⑫

- ・もらえたことがうれしかったからだよ。
- ・かえるくんが自分のためにしてくれたからうれしかった。
- ・お手紙の内容がうれしかった。

音読げきはっぴょう会をしよう ⑬⑭

- ・〇〇さんのがまくんが本当に落ち込んでるみたいでよかった。
- ・〇〇さんの動きが急いでる感じが出ていてよかった。

二人は四日間何をしていたのかな？ ⑮

- ・遊んだりしてたのかな。
- ・ずっとお話ししていたんじゃないかな。
- かたつむりくんまだかな。ぼくたちは親友だよ。お返事書くからね。

気持ちが表れるような読み方の工夫や動きを確認しておく。

意欲的に音読げき発表会の準備に参加している。(態)

学習したことをいかし、登場人物になりきって音読することができる。(思)

6. 本時について

(1) 本時目標 前時までのがまくんの行動や会話をもとに、「きみが。」と言ったがまくんの気持ちを想像することができる。

(2) 本時展開。

| 学習活動 | 主な支援・留意点 ◆評価【観点】 |
|---|---|
| <p>よろこんでいるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしいから。 ・一回もお手紙をもらったことがないから。 ・お手紙をもらえたから。 | <p>「きみが。」はどのようなように読んだらよいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時までに考えをノートに書いておき、意図的に指名ができるように個々の意見を把握しておく。 ・悩んでいる場合には、グループでの相談タイムを設ける。 ・自分の名前カードを貼って、みんなの考えが見えるようにする。 ・なぜそう考えたのか、根拠も明確にさせる。 ◆がまくんの気持ちを想像している。 【思考・判断・表現】 |
| <p>びっくりしているように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きゅうに言われたから。 ・カエル君がお手紙をくれると思わなかったから。 ・はじめてもらったから。 ・一回もお手紙をもらったことがないから。 ・あきらめていたから。 | |
| <p>ふしぎそうに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回もお手紙をもらったことがないから。 ・ポストにお手紙が入っていないから。 | |
| <p>うたがっているように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きゅうに言われたから。 ・一回もお手紙をもらったことがないから。 ・うそかもしれないと思ったから。 | |

7. 実践を終えて

本単元は、子どもたちが「お手紙」を読んで、「劇をやってみたい」「誰かに見せたい」という思いから、「音読劇発表会をしよう」という学習目標ができた。子どもたちが1年生の時に、当時の2年生の発表会を見た経験から、「自分たちも1年生を楽しませるような発表会にしたい」という声が上がった。「1年生を楽しませるためにはどうしたらよいのかな」という思いから、かえるくんとがまくんの気持ちを考えながら学習を進めた。

かえるくんとがまくんの気持ちを踏まえて、どのように音読したらよいのか考えていった際に、「きみが。」という一つの言葉に対して、「喜んでるように読む」「不思議そうに読む」「びっくりしたように読む」「疑っているように読む」という考えがでた。同じ言葉から、複数の読み方が出てきたことから、「ほかの人はどうしてそう考えたのかな」という疑問が生まれ、本時の学習問題となった。自分の考えをもち、その理由を説明することはできたが、友達の考えについて深めるところまではいかなかった。また、途中から、文章から読み取った根拠のあるものではない話にそれてしまい、登場人物の言動をもとに考えて話し合うことはできていなかった。

ノート指導については、ノートに自分の考えを書くことはできていた。さらに、一人ひとり作っていた台本については、どんな気持ちでどう表現したいかなどを書くことができていた。また、登場人物によって色分けを行うなどの工夫をしている児童もいた。振り返りについては、自分の考えについて書くことができる児童はいたが、「たのしかった」などの感想のみの児童も多いため、自分の考えや友達の考えについて目を向けられるように声掛けを行い、ふりかえりができるようにしていきたい。

成果については、本時の学習問題からずれてしまったが、友達の意見をしっかりと聞き、自分の意見を伝え合うことができた。また、1年生を楽しませたいという思いを共有して学習を進めたことで、積極的に学習を進めることができた。

課題については、友達の意見に対して、「なるほど」「いいと思います」などの反応はあるが、自分の意見を発表したい気持ちが強いため、友達の意見から考えを深める話し合いにはならず、意見を発表し合うという形になってしまった。また、途中で、教科書の本文から読み取ったことではなく、「こうかもしれない」「こうなんじゃないかな」と空想の話し合いになり、本文に基づいた話し合いではなくなってしまう。今後は、本時の学習問題についての話し合いに戻れるように声掛けをしていきたい。